



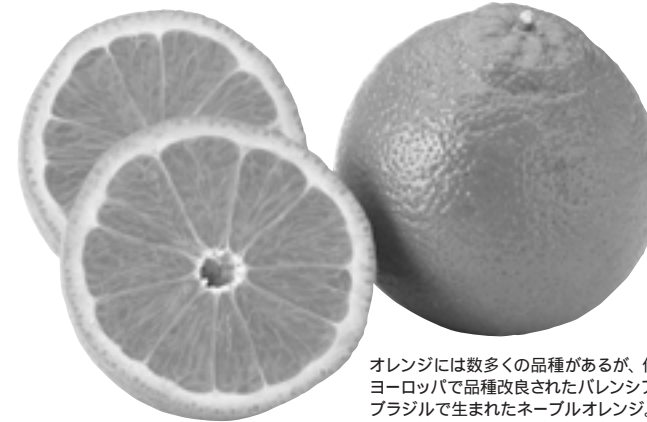
MoNo 変身図鑑

第34回

オレンジ



フレッシュなオレンジが山盛りに積まれたシリア・ダマスカスの青空マーケット



オレンジには数多くの品種があるが、代表的なのはヨーロッパで品種改良されたバレンシアオレンジと、ブラジルで生まれたネーブルオレンジ。日本で流通しているのはバレンシアが圧倒的に多い

ミカンにレモン、グレープフルーツなど、かんきつ類の種類は実に多い。日本ではミカンが身近なかんきつ類だが、世界で最も生産・消費されているのはオレンジだ。まさにかんきつ類の王様ともいえるオレンジ、その果実と香りには、知られざるパワーが秘められている。

オレンジの道の始まりはインド

スペインやアメリカの果物というイメージが強いオレンジだが、その原産地はインド北部のヒマラヤ山ろく。古代サンスクリット語で「ナゲルンガ」あるいは「ニンブ」と呼ばれていた野生のかんきつから、オレンジは生まれたといわれている。オレンジはインドから中国へ伝わり、大航海時代になるとポルトガル人によって中国からヨーロッパへと伝えられた。世界中に伝播する間に徐々に改良が加えられたオレンジは、そう快な香りと甘みを持つ果物へと姿を変えていった。

現在、世界で最もオレンジを生産しているのはブラジルで、世界の全生産量の約2割を占める。また、日本への輸入量が多いのはアメリカ、南アフリカ、オーストラリア産。果汁ではブラジル産が圧倒的に多く、輸入総額の7割以上を占めている。

果皮に隠されたオレンジのパワー

オレンジの一番の特徴は、あのそう快な香りだろう。その香りのもとになっているのは、オレンジの果皮から抽出されるリモネンと呼ばれる成分。アロマセラピーではオレンジの香りは緊張をほぐし、心身をリラックスさせる効果があるとされているが、それは主成分のリモネンの効果によるものだ。さらに、毛細血管を刺激して血行をよくする作用もある。日本人は昔からミカンやユズの皮を入れたお風呂を楽しんできたが、これも理にかなった利用法だったのだ。

リモネンにはほかにさまざまな作用がある。その一つが、電化製品の梱包や生鮮食品のトレーに使われている発砲スチロールのリサイクルでの役割だ。実はリモネンと発泡スチロールは分子構造が似ており、常温のリモネンを注ぐと発泡スチロールは溶けて原料のポリスチレンとリモネンに分離する。ポリスチレンとリモネンは繰り返し利用できる上、従来行われていた加熱処理に比べて環境への負荷も少ない。オレンジは食べれば健康にもよい。オレンジに含まれるビタミンCと、色素成分のベータクリプトキサンチンは、ガン予防に効果があるといわれている。さらに、血中コレステロール値の低下、抗ウイルス作用なども報告されている。

雑貨 Miscellaneous goods



塗料

リモネンを主成分とするオレンジオイルは、建材や木工品の塗料にも用いられている。ホルムアルデヒドなどの化学物質を含まず、環境や健康への負荷は少ない



洗剤

オレンジの皮から抽出されるリモネンは油性の汚れに強く、キッチンや住宅用の洗剤にも利用されている。ドイツでは塩素系洗剤に代わる洗剤として広く使われている



精油

オレンジの果皮から抽出されたエッセンシャルオイル。リモネンが主成分。ヨーロッパでは古くからアロマセラピーに利用されてきた



コスメ

そう快な香りづけとして、またオレンジオイルの洗浄力を利用して、せっけんやシャンプー、化粧品に用いられている



嗜好品 luxury goods

リキュール

蒸留酒にオレンジの果皮を原料とする香味成分を加えたオレンジリキュール。カクテルだけでなく、ケーキやチョコレートにも欠かせない存在だ



加工食品

オレンジジュースやマーマレードは、日本で最もポピュラーなオレンジの加工食品。果皮を細かくしたオレンジピールは、洋菓子に多く用いられている



健康食品

オレンジの花粉は、ビタミンやミネラル、アミノ酸、核酸などのほかに、体内では作られない亜鉛を含む天然栄養成分。保健機能食品の原料にも用いられている



食べ物 Foods



世界一のオレンジ大国ブラジルの陰

オレンジの生産量世界一を誇るのはブラジルだ。これがオレンジ果汁となると、世界の約70%がブラジルで収穫または加工されたオレンジを原料としているというから驚かされる。日本が輸入しているオレンジ果汁も、金額ベースでは75.5%がブラジル産で、2位のアメリカ(9%)、3位のオーストラリア(3.9%)を大きく引き離している。

ブラジルはオレンジ生産量世界一でありながら、オレンジの輸出では上位15カ国にも入っていない。それは、生産したオレンジの多くを果汁に加工して輸出しているからだ。ブラジルの果汁メーカーは国内のオレンジを低価格で仕入れ、低コストで加工し、果汁として輸出して利益を得ている。その結果、オレンジ果汁はブラジルの主要な輸出品目にもなっている。

しかしながら、その陰には低賃金でオレンジ栽培に従事している労働者が数多く存在している。